「なすことによって学ぶ」～体験を通じて育成する「繋ぐ力、繋げる力、繋がる力」

北海道浦河高等学校　学級数９　（校長　齊藤　雄大）

１　実践の趣旨

本校は、育成を目指す資質・能力の確実な定着に向け、「キャリアガイダンス部」が中心となり、科目「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」を中核とした教科等横断的な取組及びカリキュラム・マネジメントの推進に努めている。

本校は、令和２年度から令和３年度までの２年間、国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業「特別活動」の指定校として、特別活動を教育課程の要に位置付け、ホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事を通じたキャリア教育の充実に向けた特別活動の指導計画や指導方法及び評価方法の研究に取り組んだ。

生徒会執行部研修

２　実践の概要

(1) 小中高共通「キャリア・パスポート」の作成

浦河町の教育目標に基づき、発達段階に応じた浦河町共通「キャリア・パスポート」を作成し、児童生徒が一貫して自分の活動を振り返ることができる仕組みを構築した。

作成したキャリア・パスポートは、近隣の小・中学校及び教育委員会へ説明を行った。

(2) 生徒会活動による学校生活の充実と向上を図るための自治的活動

生徒会の自治的な活動を推進するため、生徒会執行部の生徒を対象とした「企画立案に係る研修」を実施した。

研修では、「本校生徒の携行品の重さが通学の負担となっている」ことが課題としてあげられ、その改善策として、生徒自らが管理するロッカーの利用方法について企画立案し、教員との意見交換や、全校集会での生徒への告知・アンケート調査を通して、生徒の企画実行力を高める取組を行った。

現在ではロッカーの管理を生徒会執行部から風紀委員へ移行し、自治的に管理を行っている。

(3) 勤労生産行事の充実に向けたアカデミックインターシップ、フィールドスタディの導入・評価

大学での生活や学習を体験する「アカデミックインターンシップ」、町外での就労体験を通じ職業観を広げ社会との繋がりを学ぶ「フィールドスタディ」及び地域理解と地元企業への理解を深める「町内インターンシップ」に分けて実施することにより、生徒の多様な進路に最適化したキャリア観の涵養を図るとともに、SDGs に関連付けた探究的視点で取り組ませるよう工夫し、社会の中で探究的に課題を解決する能力が求められていることについて生徒たちに自覚を促した。

アサーショントレーニング

(4) 合意形成に向けたアサーショントレーニングの実施

協働性、社会性や道徳観の涵養及び適切な人間関係の構築を目的としたアサーショントレーニングをホームルーム活動（LHR）で実施した。

(5) 生徒が主体となり学校の魅力を発信する「オープンスクール」の実施

これまで教員が企画運営を行っていた、中学生を対象とした「オープンスクール」を生徒主体の取組とするため、生徒たちによるプロジェクトチームを立ち上げ、パンフレット作成やプレゼンテーションによる学校紹介、探究活動の報告、高校生による体験授業や中学生との交流座談会の実施などの改善を図った。

終了後、プロジェクトチームに参加した生徒対象のアンケートでは、生徒の社会参画意識の高まりが見られた。

オープンスクール

３　今後の取組に向けて（○成果　●課題）

○　町内の小・中学校と連携し、共通の「キャリア・パスポート」を作成することができた。また、小中高の連携協議を通じて、「キャリア・パスポート」の引継ぎや活用について共通認識を図ることができた。

○　年度当初に全校生徒を対象に実施した、「人間関係形成」や「社会形成」、「自己理解」等、特別活動に係るアンケートの結果を基に、課題を整理して学校行事の改善を図ったところ、年度末に実施した同様のアンケートでは、全ての項目で改善が見られた。

●　小中高を通じた「キャリア・パスポート」の校種間での引継ぎに ICT を活用する手法を検討するとともに、指導の内容等が、学校によって差が生じないようにする必要もあることから、町内での基本運用に係るマニュアルの策定について検討を進める。

●　インターンシップの改編により、生徒たちは自らの希望に添った三つの分野から選択し希望分野での進路理解を深めることできる一方で、未知の校種や業種について理解を深めるという点で課題が見られることから、生徒が、より幅広い知識や経験を基にしたキャリア形成を図ることができるよう、インターンシップの在り方について検討を進める必要がある。